

国際的志向性が低い学生の 異文化感受性の変化の検証

—— 異文化感受性発達度アンケートからの考察 ——

天 木 勇 樹
東 本 裕 子
白 須 洋 子

1. はじめに

長年、英語科目と共に短期海外研修の開発や引率、国際理解や異文化間コミュニケーション等の科目を担当する中で、学生の英語力と自己効力感のみならず、国際的志向性も低い学生の存在がわかった。短期海外研修プログラムの異文化体験の中で学生は旅行的に楽しむことができるが、異文化理解にまで及ばず、学習継続意欲を失う傾向も大きいと考える。廣瀬（2020）は、高い国際的志向性（文化間積極傾向・国際的事象への関心）を示す日本の大学生は、異なる言語学的かつ文化的背景を持つ人々と積極的に交流しようとする傾向があると述べている（p.289）。国際的志向性が高く、異文化理解を積極的に行う学生もいる一方で、沼田（2012）が行った異文化理解調査では、異文化理解が十分にできない学生や、異文化理解をすることに対して抵抗を見せる学生がいることを明らかにしている（p.61）。海外留学や海外インターンシップなどに参加する国際的志向が高い学生を対象とした異文化間コミュニケーション力に関する研究は多くみられるが、国際的志向性の低い学生を対象に絞った研究は少ない。本研究では、国際理解科目や国際系ゼミを選択しているにもかかわらず、英語学習や海外文化への興味が低く、さらに、自己効力感の低さのためにコミュニケーションや外国人との

英語使用に消極的な学生に対して、体験型英語学習施設「TOKYO GLOBAL GATEWAY（以下、TGG）¹⁾」における実践的な英語活動や異文化体験を行う1日国内留学を通じ、学生がもたらす異文化感受性の変化を検証する。

グローバル社会において異なる価値観や考えを持つ人々とコミュニケーションを図る上で、国際的志向性や自己効力感を強く持てる人材が求められる。阿部・新見・星（2018）は、グローバル社会で生活する上で、「自らが道を切り開いていくチャレンジ精神に加え、遭遇する環境への適応力や柔軟性といったマインドセットが求められる」と述べている（p.6）。本稿における調査研究を皮切りにし、国際的志向性の低い学生が、加速するグローバル社会において、英語学習に対する高い学習意欲および自己効力感を向上させられるような英語・異文化理解教育を実践するための具体的な施策を構築することが最終的な目標である。

2. 研究の背景

2.1. 異文化感受性発達モデル

本稿では、異文化感受性発達モデルに基づいて大学生の異文化感受性の発達度合いを測定する。異文化間のコミュニケーションの研究において、Bennett（1986）は、異文化間におけるコミュニケーション力には発達段階があると述べ、異文化理解に対する感受性の観点からその過程を6段階に分けた「異文化感受性発達モデル（A Developmental Model of Intercultural Sensitivity; 以下、DMIS）」に整理した（図1）。それをもとにし、Hammer & Bennett（1998）は、異文化理解に関わる能力を測定するために異文化感受性アセスメント（Intercultural Development Inventory; 以下、IDI）を作成した。

IDIは、文化的な差異や共通点に対する6つの指向性の能力を経験的に測定する尺度であり、その発達状況を個人単位、または、集団単位で測定することができる。山本・丹野（2002）は、英語版のIDIをもとに60の質問からなる日本語版IDIを作成した。異文化感受性発達モデル（図1）は大きく

2つに分類することができ、前半の第1段階「違いの否定」から第3段階「違いの最小化」までの3つの段階を自文化中心的段階、後半の第4段階「違いの受容」から第6段階「違いとの統合」までの3つの段階を文化相対的段階に分類できる。山本・丹野（2022）よれば、第1段階の「違いの否定」では、自文化が自身にとって唯一の現実であり、自文化以外のものから心理的かつ物理的に距離を保ち、その存在を避ける。第2段階の「違いからの防衛」は、自文化が一番正しい経験であり、文化的に異なるものは否定する段階である。第3段階の「違いの最小化」は、他文化の表面的な違いを受け入れるが、本質的には自文化と同じであると考えられる段階である。第4段階の「違いの受容」では、他文化は自文化と同様に複雑なものであると理解し、その違いを理解し尊重できる段階である。第5段階の「違いへの適応」は、他文化の人の価値観や世界観を相手の立場に立って考えることができ、他文化の人の価値観や世界観に基づき動くことができる段階である。第6段階の「違いとの統合」は、自文化と他文化の状況を理解し受け入れることができる段階である。さらに、6つの異文化感受性発達段階の各項目の下位カテゴリーとして、それぞれの段階での発達段階を分類したものが図2である

図1 異文化感受性発達モデル (1) ²⁾

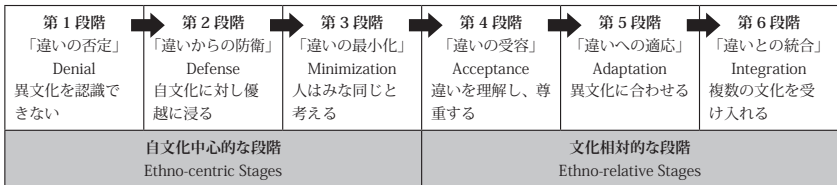


図2 異文化感受性発達モデル (2) ³⁾

| 発達段階 | 下位カテゴリー |
|--------------------|---------------------------------------|
| 第1段階「違いの否定」 ↓ | ・無関心 ・隔絶 ・分離 |
| 第2段階「違いからの防衛」 ↓ | ・侮辱 ・優越 |
| 第3段階「違いの最小化」 ↓ | ・違いの表面性 ・人間的類似性 ・普遍的価値 |
| 第4段階「違いの受容」 ↓ | ・違いの描写 ・違いを楽しむ ・違いを学習 ・価値相対性 |
| 第5段階「違いへの適応」 ↓ | ・多重視点 ・枠組み転換 ・文化間の橋渡し |
| 第6段階「違いとの統合」 | ・行動転換 ・文化的複雑性 |

2.2. 先行研究

2.2.1 日本語版異文化感受性発達尺度の作成

本稿の研究では、英語版異文化感受性発達尺度 (IDI) の日本語版 IDI を活用し、アンケート調査を実施した。山本・丹野 (2002) は、Hammer & Bennett (1998) が開発した異文化感受性発達尺度を日本語に翻訳し、60 の質問が日本人を対象とする調査に適用できるかどうか調査を行った。調査対象者は青森県の大学生 90 名と東京の大学生 81 名である。その結果、修正や改善を必要とする質問項目がある中、下位カテゴリーの「隔絶・分離」(第1段階目)、「侮辱」(第2段階目)、「優越」(第2段階目) の3つが使用に耐えうる指標であることが明らかになった。さらに、山本・丹野(2002)は、自文化中心的段階の初期段階 (第1段階～第2段階) を測定するためには最適な手段であるが、その他の質問項目では有効性を再検討する必要があると指摘する。また、第3段階「違いの最小化」の下位カテゴリーにある「普遍的価値」の質問項目の中に、「私たちの根元は皆、超自然で神聖な存在にあるので、それ故に相違点よりも類似点の方が多い」という質問がある。

その点について、山本・丹野（2002）は、「超越的な存在のもとで共通性を感じるという世界観は日本人の「最小化」段階の異文化感受性を適切に表しているかという疑問が残される」（p.40）と指摘する。「超自然で神聖な存在」などという表現を学生が日常生活においても使用する機会はほぼなく、日本人学生が理解できるような表現に修正することが必要であると考ええる。

山本・丹野（2002）が作成した日本語版の質問項目の中には学生が回答する上で理解が難しい表現が使われているが、本稿の調査では、日本語版 IDI を修正せずにそのまま使用した。IDI は異文化トレーニングや留学体験などが学生個人に与えた影響を調査する上で、その時点での異文化感受性の発達程度を測定する手段であるため、事前・事後で測定し比較するために最適な手段であると山本・丹野（2002）は述べている。そのため、本稿における調査では、既存の日本語版 IDI を活用し、TGG のアクティビティ参加前後での学生の異文化感受性の発達程度を分析した。今後、異文化コミュニケーションに関する授業科目や英語科目が国際的志向性の低い学生にもたらす教育効果を検証し、日本語版 IDI の高度化を図りたいと考えている。

2.2.2 IDI を活用した多様性トレーニングの効果

IDI を活用した異文化感受性の変化に関する検証が国内の教育現場で行われている。坂田・前田（2005）は、日本人大学生 32 名を対象として、約 30 時間の多様性トレーニング参加前後での IDI を用いた効果を検証した。異文化滞在経験無しの学生は全体の 66.6% を占め、3 か月未満の異文化滞在経験者は 25.9%、2 年以上の異文化滞在経験者は 7.4% である。4 日間の集中講義形式の授業では、【1 日目】自文化の気づきを高める授業（エゴグラムを用いた自己分析や生活・文化体験が現在の自己に与えた影響等）、【2 日目】ステレオタイプの構造と影響を理解する授業（時間感覚の違いやコミュニケーションスタイルの違い等がどのようにステレオタイプを作り出すか学ぶこと等）、【3 日目】ステレオタイプから脱却する方法を習得する授業（グループシミュレーション「ワニの川」を用いた価値観の衝突体験等）、【4 日目】ステレオタイプから脱却する方法を体験する授業（異文化シミュレーション「アルバトロス」を用いた異文化と遭遇した場合の体験等）が含まれてい

る (p.18)。調査の結果、多様性トレーニングを通じて、図1の第2段階「違いからの防衛」から第3段階の「違いの最小化」へと学生の異文化感受性を引き上げることができ、学生の文化的アイデンティティを安定させることが明らかになった (p.11)。今後より高い異文化感受性の効果を上げるためには、「英語信仰・欧米文化主義」に対応する活動や異文化との共通点を実際に経験できる活動が必要であると述べている (p.14)。坂田・前田 (2005) が実施した調査では、実際に海外の異文化とうまく接することができるようになったかどうかについての検証が行われていないと指摘があるため、本稿の調査では、1日の国内留学ではあるが、限られた時間の中で参加学生が外国人教員と英語で交流したことを通して、プログラム参加前後での学生の異文化感受性がどのように変化したかについて検証する。

3. 研究の目的

本研究は、海外留学経験がなく、国際的志向性が低い学生の異文化感受性を育てるため、対象となる学生の異文化に対する心持ちや背景に関する調査を行い、異文化感受性発達モデルによる各段階の学生への効果的な異文化理解指導法を考案することを最終的な目標とする。本稿では、その第一段階の研究として、日本語版の異文化感受性発達尺度にのっとり、私立A大学の学生のTGGでの国内留学参加前後での異文化感受性の変化を分析する。海外留学経験がなく、国際的志向性が低い学生の多くが、異文化感受性モデルの第1段階から第3段階に属すると仮定し、TGGでのアクティビティ参加後には、自己効力感が高まり、英語学習の意欲の向上などの心境の変化が生まれることが期待できる。TGGでの国内留学を通じ、海外留学未経験の学生と留学経験のある学生との間で、異文化感受性に対してどの程度の差が生じるかについて比較する。

4. 調査の概要

本調査では、関東にある私立 A 大学の学生を対象に、オンラインによる日本語版異文化感受性発達度に関するアンケート調査を実施した。TGG が提供する異文化理解に関連する 1 日コース(9 時～16 時)のアクティビティに参加し、参加前後での学生の異文化感受性に関する意識の変化を調査する。

TGG が提供するアクティビティの詳細は表 1 のとおりである。参加学生は 4 つのグループに分かれ、セッション 1 からセッション 4 までの全てのアクティビティに参加する。

TGG のアクティビティに参加する数週間前に日本語版 IDI の事前調査を実施し、アクティビティ参加後の 1 週間以内に事前調査と同じ質問内容の事後調査をオンラインで実施する。文化的差異や共通点に対する 6 つの志向性を経験的に測定する IDI の 60 の質問からなるアンケート調査内容を以下に示す。なお、問 1 の基本データ(学年、英語力、海外留学経験)以外は、4 段階の回答選択(とてもそう思う、ややそう思う、あまりそう思わない、全くそう思わない)を求めた。異文化感受性発達モデル(図 1・図 2)の前半 3 つの段階である自文化中心的段階の質問項目は【問 2】から【問 8】であり、後半 3 つの段階である文化相対的段階の質問項目は【問 9】から【問 17】である。

表 1 国内留学内容 (TGG が提供するアクティビティ 1 日コース⁴⁾)

| |
|--|
| <p>【チームビルディング】 10 名程度のグループに分かれ、外国人教員と自己紹介等を行う。</p> |
| <p>【セッション 1】 ニュース取材 (Experiencing News Reporting) : マナーや質問の仕方などの含む一般的な取材方法を学んだ上で実際に取材体験をし、グループワークで情報を共有、整理する。その後、要旨が伝わる記事制作をし、リード文などをグループごとに発表する。</p> |
| <p>【セッション 2】 ニュース番組 (Original News Program) : 時事ニュースや天気予報に触れながら、見せ方や伝え方などオーディエンスを意識した情報発信力を養う。ディレクターやキャスターなど役割分担し、グループごとにオリジナルのニュース番組を制作する。</p> |
| <p>【セッション 3】 SDGs の視点から世界の貧困問題を考えよう (World Poverty through SDGs) : SDGs の目標 1「貧困をなくそう」と目標 2「飢餓をゼロに」を学ぶ。世界の各地域における社会的課題について、グループに分かれてディスカッションを行う課題解決プログラムである。</p> |
| <p>【セッション 4】 日本にいながら異文化理解 @TGG (Cultural Understandings) : 様々な国の文化や価値観に触れ、その背景や考え方を理解する。お互いの文化や価値観を尊重する重要性を認識するプログラムである。</p> |

国際的志向性が低い学生の異文化感受性の変化の検証

5. 調査結果

5.1 基本データ結果

本調査の有効回答数は、事前アンケート調査では 30 件であり、TGG のアクティビティに参加できなかった学生が 2 名いたため、事後アンケート調査の回答数は 28 件であった。事前調査の回答者の内訳は、2 年生 18 名、3 年生 12 名である。本調査では、海外留学経験が一度もない学生、3 か月未満の海外留学経験がある学生、2 年以上の海外留学経験がある学生の 3 つのグループに分け、それぞれの質問項目について分析した。海外留学経験が一度もない学生は、全体の 66.7% (20 名)、3 か月未満の留学経験のある学生は 10% (3 名)、2 年以上の留学経験のある学生は 23.3% (アジアからの留学生 7 名) であった。また、TGG のアクティビティ参加後の事後アンケート調査の回答者の内訳は、2 年生 17 名、3 年生 11 名である。海外留学経験については、海外留学経験のない学生が全体の 64.3% (18 名)、3 か月未満の留学経験を持つ学生が 10.7% (3 名)、2 年以上の留学経験がある学生は 25% (アジアからの留学生 7 名) であった。

表 2 は、参加学生の事前・事後アンケートでの英語力である。事前アンケー

ト調査では、TOEIC® Listening & Reading スコア 120～220 点レベルの英語力を持つ海外留学未経験の学生が大半を占めているが、事後アンケート調査では海外留学未経験者の英語力がわずかに上がっていることが示された。

表 2 参加学生の英語力

| | 事前アンケート調査結果 | | | | 事後アンケート調査結果 | | | |
|-------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| | TOEIC® L&R 120-220 | TOEIC® L&R 225-545 | TOEIC® L&R 550-780 | TOEIC® L&R 785-990 | TOEIC® L&R 120-220 | TOEIC® L&R 225-545 | TOEIC® L&R 550-780 | TOEIC® L&R 785-990 |
| 留学経験 | | | | | | | | |
| 留学未経験 | 14 | 5 | 1 | 0 | 9 | 8 | 1 | 0 |
| 3か月未満 | 2 | 0 | 1 | 0 | 2 | 0 | 1 | 0 |
| 2年以上 | 1 | 5 | 1 | 0 | 1 | 5 | 0 | 1 |

5.2 異文化感受性発達尺度の量的調査結果

表 3 から表 18 では、それぞれの異文化感受性の発達状況について、TGG でのアクティビティ参加前後で学生の異文化感受性の変化を測定した。事前・事後調査では、学生が各質問に対して「とてもそう思う」を 4 点、「ややそう思う」を 3 点、「あまりそう思わない」を 2 点、「全くそう思わない」を 1 点として、平均値を算出した。留学経験が一度もない学生のグループ、3 か月未満の留学経験を持つ学生のグループ、2 年以上の海外留学経験を持つ学生のグループの 3 つのグループに分類し、各段階における結果の平均値を求め比較したところ、平均値にばらつきがある質問項目があることが示された。

5.2.1 異文化感受性発達段階のうちの第 1 段階「違いの否定」

6 つの発達段階のうちの第 1 段階目は、「違いの否定」である。その下位カテゴリーの「無関心」についての質問は以下の 4 つである。

- (1) 他の国々で何が起きているかについて注意を払いたいと切実に願う理由が私には分からない。

- (2) 国際問題を気にかけることは、私にとってあまり重要ではない。
 (3) 私の周囲には、気にかけるに足るほどの文化的違いが実際にはない。
 (4) 他の文化についてもっとよく学ぶ実際の理由なんてない。

TGG でのアクティビティ参加後の事後調査（表 3）では、わずかに高い平均値を示した。特に質問（3）の事後調査結果では、全てのグループの平均値が高くなっている。海外留学未経験者のグループでは、TGG でのアクティビティを通じ、文化的違いを実際に自己認識した学生が多かったことが伺える。また、3 か月未満の海外留学経験を持つ学生のグループでは、質問（4）の事前・事後調査における平均値に大きな差が示された。アクティビティ参加を通じ、他の文化を学ぶ重要性を強く感じた学生と異文化を学ぶことに對する迷いが生じた学生がいる可能性がある。

表 3 異文化理解に対する「無関心」

| 事前アンケート調査結果 | | | | | |
|-------------|------|--------|--------|--------|--------|
| 海外留学経験 | | 質問 (1) | 質問 (2) | 質問 (3) | 質問 (4) |
| 海外留学経験無し | 平均値 | 1.80 | 1.70 | 1.95 | 1.90 |
| | 度数 | 20 | 20 | 20 | 20 |
| | 標準偏差 | 0.90 | 0.80 | 0.83 | 0.85 |
| 3 か月未満 | 平均値 | 1.67 | 1.33 | 1.67 | 2.00 |
| | 度数 | 3 | 3 | 3 | 3 |
| | 標準偏差 | 0.58 | 0.58 | 0.58 | 1.00 |
| 2 年以上 | 平均値 | 2.00 | 1.71 | 1.57 | 1.29 |
| | 度数 | 7 | 7 | 7 | 7 |
| | 標準偏差 | 0.58 | 0.76 | 0.79 | 0.49 |
| 合計 | 平均値 | 1.83 | 1.67 | 1.83 | 1.77 |
| | 度数 | 30 | 30 | 30 | 30 |
| | 標準偏差 | 0.79 | 0.76 | 0.79 | 0.82 |
| 事後アンケート調査結果 | | | | | |
| 海外留学経験 | | 質問 (1) | 質問 (2) | 質問 (3) | 質問 (4) |
| 海外留学経験無し | 平均値 | 1.94 | 1.56 | 2.28 | 1.78 |
| | 度数 | 18 | 18 | 18 | 18 |
| | 標準偏差 | 0.94 | 0.86 | 1.02 | 1.00 |
| 3 か月未満 | 平均値 | 2.33 | 2.33 | 2.00 | 3.00 |
| | 度数 | 3 | 3 | 3 | 3 |
| | 標準偏差 | 1.53 | 1.53 | 1.73 | 1.73 |
| 2 年以上 | 平均値 | 2.00 | 1.43 | 2.00 | 1.57 |
| | 度数 | 7 | 7 | 7 | 7 |
| | 標準偏差 | 0.82 | 0.54 | 1.00 | 0.54 |
| 合計 | 平均値 | 2.00 | 1.61 | 2.18 | 1.86 |
| | 度数 | 28 | 28 | 28 | 28 |
| | 標準偏差 | 0.94 | 0.88 | 1.06 | 1.04 |

- 次に、「隔絶・分離」についての質問項目は以下の6つである。
- (5) もし文化的に異なる集団が、自分たちだけでいてくれるなら、社会はもっとうまくいくだろう。
- (6) 私は、他の文化からきたように見える人々の側にはいたくない。
- (7) 私は自分と違ったふるまいをする他の文化の人々を避けている。
- (8) 私は異質な感じの人々を避けている。
- (9) 見かけの違う人々が物事を違ったやり方ですると、私はたいていその人々と話をすることを避けようとする。
- (10) 文化の異なる人々とつきあうのはあまり好きではない。

表4 異文化理解に対する「隔絶・分離」

| 事前アンケート調査結果 | | | | | | | |
|-------------|------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 海外留学経験 | | 質問 (5) | 質問 (6) | 質問 (7) | 質問 (8) | 質問 (9) | 質問 (10) |
| 海外留学経験無し | 平均値 | 2.00 | 1.85 | 1.65 | 1.80 | 1.75 | 1.55 |
| | 度数 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 |
| | 標準偏差 | 0.73 | 0.67 | 0.81 | 0.89 | 0.79 | 0.83 |
| 3か月未満 | 平均値 | 2.33 | 1.67 | 2.00 | 2.00 | 2.67 | 1.67 |
| | 度数 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 |
| | 標準偏差 | 1.53 | 0.58 | 1.00 | 1.00 | 1.53 | 0.58 |
| 2年以上 | 平均値 | 1.57 | 1.29 | 1.29 | 1.43 | 1.43 | 1.14 |
| | 度数 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 |
| | 標準偏差 | 0.79 | 0.49 | 0.49 | 0.79 | 0.79 | 0.38 |
| 合計 | 平均値 | 1.93 | 1.70 | 1.60 | 1.73 | 1.77 | 1.47 |
| | 度数 | 30 | 30 | 30 | 30 | 30 | 30 |
| | 標準偏差 | 0.83 | 0.65 | 0.77 | 0.87 | 0.90 | 0.73 |
| 事後アンケート調査結果 | | | | | | | |
| 海外留学経験 | | 質問 (5) | 質問 (6) | 質問 (7) | 質問 (8) | 質問 (9) | 質問 (10) |
| 海外留学経験無し | 平均値 | 2.22 | 1.78 | 1.61 | 1.89 | 1.83 | 1.50 |
| | 度数 | 18 | 18 | 18 | 18 | 18 | 18 |
| | 標準偏差 | 1.00 | 1.00 | 0.98 | 1.08 | 0.99 | 0.92 |
| 3か月未満 | 平均値 | 3.33 | 1.67 | 2.00 | 2.67 | 1.67 | 1.67 |
| | 度数 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 |
| | 標準偏差 | 1.16 | 0.58 | 1.00 | 1.53 | 0.58 | 0.58 |
| 2年以上 | 平均値 | 1.57 | 1.43 | 1.43 | 1.57 | 1.57 | 1.29 |
| | 度数 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 |
| | 標準偏差 | 0.79 | 0.54 | 0.54 | 0.79 | 0.79 | 0.49 |
| 合計 | 平均値 | 2.18 | 1.68 | 1.61 | 1.89 | 1.75 | 1.46 |
| | 度数 | 28 | 28 | 28 | 28 | 28 | 28 |
| | 標準偏差 | 1.06 | 0.86 | 0.88 | 1.07 | 0.89 | 0.79 |

「隔絶・分離」についての各質問において、海外留学未経験者のグループでは、TGGでのアクティビティ参加前後での平均値に大きな変化は見られない(表4)。また、3か月未満の留学経験を持つ学生のグループでは、質

問(9)において、事前・事後調査の平均値で大きな差が示された。アクティビティ参加を通じ、「見かけの違う人々を避けようとする」と感じる学生の数が減少したことが示された。

5.2.2 異文化感受性発達段階のうちの第2段階「違いからの防衛」

「違いからの防衛」の下位カテゴリーの「侮辱」についての質問は5つである。

- (11)他の文化の人々は、私の文化の人々と比べると、一般的に怠け者である。
- (12)一般的に、他の文化は、私の文化よりも劣っている。
- (13)他の文化の人々は、私の文化の人々よりも文明が発達していない。
- (14)他の文化の人々は、私の文化の人々よりも知性が低い。
- (15)他の文化の人々は、私の文化の人々と比べると不正直である。

表5 異文化理解に対する「侮辱」

| 事前アンケート調査結果 | | | | | | |
|-------------|------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 海外留学経験 | | 質問(11) | 質問(12) | 質問(13) | 質問(14) | 質問(15) |
| 海外留学経験無し | 平均値 | 2.00 | 1.50 | 1.60 | 1.40 | 1.65 |
| | 度数 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 |
| | 標準偏差 | 0.97 | 0.83 | 0.88 | 0.82 | 0.88 |
| 3か月未満 | 平均値 | 1.67 | 1.33 | 1.33 | 1.33 | 2.00 |
| | 度数 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 |
| | 標準偏差 | 0.58 | 0.58 | 0.58 | 0.58 | 1.73 |
| 2年以上 | 平均値 | 1.29 | 1.14 | 1.14 | 1.14 | 1.14 |
| | 度数 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 |
| | 標準偏差 | 0.49 | 0.38 | 0.38 | 0.38 | 0.38 |
| 合計 | 平均値 | 1.80 | 1.40 | 1.47 | 1.33 | 1.57 |
| | 度数 | 30 | 30 | 30 | 30 | 30 |
| | 標準偏差 | 0.89 | 0.72 | 0.78 | 0.71 | 0.90 |
| 事後アンケート調査結果 | | | | | | |
| 海外留学経験 | | 質問(11) | 質問(12) | 質問(13) | 質問(14) | 質問(15) |
| 海外留学経験無し | 平均値 | 1.78 | 1.33 | 1.39 | 1.39 | 1.44 |
| | 度数 | 18 | 18 | 18 | 18 | 18 |
| | 標準偏差 | 1.00 | 0.77 | 0.85 | 0.85 | 0.86 |
| 3か月未満 | 平均値 | 1.33 | 1.33 | 1.33 | 1.00 | 2.33 |
| | 度数 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 |
| | 標準偏差 | 0.58 | 0.58 | 0.58 | 0.00 | 1.53 |
| 2年以上 | 平均値 | 1.29 | 1.29 | 1.29 | 1.14 | 1.14 |
| | 度数 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 |
| | 標準偏差 | 0.49 | 0.49 | 0.49 | 0.38 | 0.38 |
| 合計 | 平均値 | 1.61 | 1.32 | 1.36 | 1.29 | 1.46 |
| | 度数 | 28 | 28 | 28 | 28 | 28 |
| | 標準偏差 | 0.88 | 0.67 | 0.73 | 0.71 | 0.88 |

「侮辱」の質問項目において、各学生グループの事前・事後調査では、平均値の大きな差は示されなかった（表5）。海外留学未経験者のグループの平均値が、事後調査ではわずかに下がり、他文化の人々に対する「侮辱」の意識に変化が見られた。留学経験のある学生のグループでは、TGGでのアクティビティ参加前から他文化の人は一般的に怠け者であることや自文化よりも一般的に劣っていると考えた学生がいないため、平均値にも大きな変化が示されなかった。海外留学未経験の学生にとっては、今回の外国人教員との交流を通じ、異文化理解に対する「侮辱」の観点から意識の変化があったことがわかる。

次に、「優越」についての質問は以下の5つである。

- (16)私の文化の人々は、他の文化の人々よりも洗練されている。
- (17)私の文化の人々は、世界中のほとんどの文化よりも完璧に近い。
- (18)私の文化の暮らし方は、世界の文化の規範になるべきだ。
- (19)他の文化の人々は、私の文化の人々ほど心が広くない。
- (20)世界の他の国々は、彼らの問題を解決する答えを、私の文化に期待すべきだ。

「優越」についての質問では、各グループにおいて事前・事後調査の平均値に変化が示された（表6）。海外留学未経験者のグループでは、特に質問(16)と(20)の事前・事後調査の平均値を見ると、事後調査の平均値がわずかに上がっている。TGGでの様々なアクティビティを通じ、他文化の人々よりも洗練され、問題の解決の答えを自身の文化に期待すべきであると感じる学生が増えたことがわかる。3か月未満の海外留学経験のある学生のグループでは、全ての質問において、事後調査の平均値が上がっている。3か月程度の留学経験を持つ学生は、自文化に対する優越感がTGGでのアクティビティを通じて高まった可能性がある。一方で、2年以上の留学経験のある学生のグループでは、事後調査での平均値が全ての質問において下がっている。留学経験が長い学生は、常に自身の文化と相手の文化を受け入れながら生活している可能性があるため、自文化に対して「優越」に感じる発達段階をすでに越えていることが推測できる。

表 6 異文化理解に対する「優越」

| 事前アンケート調査結果 | | | | | | |
|-------------|------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 海外留学経験 | | 質問 (16) | 質問 (17) | 質問 (18) | 質問 (19) | 質問 (20) |
| 海外留学経験無し | 平均値 | 1.95 | 1.70 | 1.90 | 1.70 | 1.60 |
| | 度数 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 |
| | 標準偏差 | 0.76 | 0.66 | 0.79 | 0.73 | 0.68 |
| 3か月未満 | 平均値 | 2.33 | 1.33 | 1.00 | 1.33 | 1.33 |
| | 度数 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 |
| | 標準偏差 | 1.53 | 0.58 | 0.00 | 0.58 | 0.58 |
| 2年以上 | 平均値 | 2.00 | 1.86 | 1.86 | 1.57 | 1.71 |
| | 度数 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 |
| | 標準偏差 | 1.00 | 1.07 | 1.07 | 0.79 | 1.11 |
| 合計 | 平均値 | 2.00 | 1.70 | 1.80 | 1.63 | 1.60 |
| | 度数 | 30 | 30 | 30 | 30 | 30 |
| | 標準偏差 | 0.87 | 0.75 | 0.85 | 0.72 | 0.77 |
| 事後アンケート調査結果 | | | | | | |
| 海外留学経験 | | 質問 (16) | 質問 (17) | 質問 (18) | 質問 (19) | 質問 (20) |
| 海外留学経験無し | 平均値 | 2.00 | 1.61 | 1.67 | 1.50 | 1.72 |
| | 度数 | 18 | 18 | 18 | 18 | 18 |
| | 標準偏差 | 1.03 | 0.92 | 0.91 | 0.86 | 1.02 |
| 3か月未満 | 平均値 | 3.00 | 2.00 | 2.00 | 2.33 | 2.00 |
| | 度数 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 |
| | 標準偏差 | 1.73 | 1.73 | 1.73 | 1.53 | 1.73 |
| 2年以上 | 平均値 | 1.29 | 1.29 | 1.43 | 1.29 | 1.29 |
| | 度数 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 |
| | 標準偏差 | 0.49 | 0.49 | 0.79 | 0.49 | 0.49 |
| 合計 | 平均値 | 1.93 | 1.57 | 1.64 | 1.54 | 1.64 |
| | 度数 | 28 | 28 | 28 | 28 | 28 |
| | 標準偏差 | 1.09 | 0.92 | 0.95 | 0.88 | 0.99 |

5.2.3 異文化感受性発達段階のうちの第3段階「違いの最小化」

第3段階目は、「違いの最小化」であり、下位カテゴリーの「違いの表面性」についての質問は以下の3つである。

- (21)外見上の違いがあるにも拘らず、人はみな同じものである。
- (22)私は人々を異ならせるものについて終始聞くことにうんざりしている。

結局のところ、私たちは皆人類であるということを認める必要がある。

- (23)文化における表面上の違いにも拘らず、人々は人間であるということにおいて基本的に皆同じである。

「違いの表面性」に関する質問において、海外留学未経験者のグループの事前・事後調査結果の平均値が高く、大きな差は示されなかった(表7)。3か月未満の海外留学経験を持つ学生グループの事後調査では、他のグループに比べ、質問(22)および(23)の平均値が事前調査結果よりも低い値を示した。人はみな同じであるという質問に対して、今回のTGGでのアクティ

ビティ体験や今までの経験を振り返り、「人はみな同じ」であるという考えを受け入れることができない体験をした学生がいることが推測できる。TGGでのアクティビティ参加後の事後調査結果では、各グループの平均値が全体的に高く、TGGの外国人教員と参加学生との交流を通じ、人はみな同じであるという意識が高まったことが伺える。

表7 異文化理解に対する「違いの表面性」

| 事前アンケート調査結果 | | | | |
|-------------|------|---------|---------|---------|
| 海外留学経験 | | 質問 (21) | 質問 (22) | 質問 (23) |
| 海外留学経験無し | 平均値 | 3.25 | 3.10 | 3.40 |
| | 度数 | 20 | 20 | 20 |
| | 標準偏差 | 0.72 | 0.72 | 0.50 |
| 3か月未満 | 平均値 | 2.67 | 3.33 | 3.33 |
| | 度数 | 3 | 3 | 3 |
| | 標準偏差 | 1.53 | 1.16 | 1.16 |
| 2年以上 | 平均値 | 2.86 | 2.86 | 2.57 |
| | 度数 | 7 | 7 | 7 |
| | 標準偏差 | 0.90 | 0.90 | 0.79 |
| 合計 | 平均値 | 3.10 | 3.07 | 3.20 |
| | 度数 | 30 | 30 | 30 |
| | 標準偏差 | 0.85 | 0.79 | 0.71 |
| 事後アンケート調査結果 | | | | |
| 海外留学経験 | | 質問 (21) | 質問 (22) | 質問 (23) |
| 海外留学経験無し | 平均値 | 3.39 | 3.17 | 3.39 |
| | 度数 | 18 | 18 | 18 |
| | 標準偏差 | 0.61 | 0.79 | 0.61 |
| 3か月未満 | 平均値 | 3.00 | 2.67 | 2.67 |
| | 度数 | 3 | 3 | 3 |
| | 標準偏差 | 1.73 | 1.53 | 1.53 |
| 2年以上 | 平均値 | 3.29 | 3.00 | 3.14 |
| | 度数 | 7 | 7 | 7 |
| | 標準偏差 | 1.11 | 1.16 | 1.07 |
| 合計 | 平均値 | 3.32 | 3.07 | 3.25 |
| | 度数 | 28 | 28 | 28 |
| | 標準偏差 | 0.86 | 0.94 | 0.84 |

次に、「人間的類似性」についての質問は以下の3つである。

(24)他の文化の人々は、あなたが「そのままにいる」のを好ましく思う。

(25)すべての人々は、基本的には同じである。

(26)人々は同じである。私たちは同じような欲求、関心、人生における目標を持っている。

表 8 異文化理解に対する「人間的類似性」

| 事前アンケート調査結果 | | | | |
|-------------|------|---------|---------|---------|
| 海外留学経験 | | 質問 (24) | 質問 (25) | 質問 (26) |
| 海外留学経験無し | 平均値 | 3.05 | 3.15 | 2.95 |
| | 度数 | 20 | 20 | 20 |
| | 標準偏差 | 0.61 | 0.81 | 0.89 |
| 3 か月未満 | 平均値 | 3.00 | 1.33 | 2.33 |
| | 度数 | 3 | 3 | 3 |
| | 標準偏差 | 1.73 | 0.58 | 1.53 |
| 2 年以上 | 平均値 | 2.29 | 2.57 | 2.57 |
| | 度数 | 7 | 7 | 7 |
| | 標準偏差 | 0.49 | 1.13 | 1.13 |
| 合計 | 平均値 | 2.87 | 2.83 | 2.80 |
| | 度数 | 30 | 30 | 30 |
| | 標準偏差 | 0.78 | 1.02 | 1.00 |
| 事後アンケート調査結果 | | | | |
| 海外留学経験 | | 質問 (24) | 質問 (25) | 質問 (26) |
| 海外留学経験無し | 平均値 | 3.33 | 3.33 | 3.06 |
| | 度数 | 18 | 18 | 18 |
| | 標準偏差 | 0.59 | 0.77 | 1.00 |
| 3 か月未満 | 平均値 | 2.00 | 1.33 | 3.00 |
| | 度数 | 3 | 3 | 3 |
| | 標準偏差 | 1.00 | 0.58 | 1.00 |
| 2 年以上 | 平均値 | 2.57 | 2.57 | 2.29 |
| | 度数 | 7 | 7 | 7 |
| | 標準偏差 | 0.98 | 0.79 | 1.11 |
| 合計 | 平均値 | 3.00 | 2.93 | 2.86 |
| | 度数 | 28 | 28 | 28 |
| | 標準偏差 | 0.86 | 0.98 | 1.04 |

「人間的類似性」の質問の中で、海外留学未経験者のグループは、事前・事後調査結果ともに高い平均値を示した（表 8）。一方で、3 か月未満の留学経験のある学生グループでは、質問（25）では、全ての人々は基本的に同じであるという考えに対し同意できない学生もいるため、事前・事後調査ともに低い平均値を示した。2 年以上の留学経験のある学生グループでは、事前・事後調査の平均値に大きな変化は示されなかった。

次に、「普遍的価値」についての質問は以下の 4 つである。

(27) 地球上の全ての人々が究極的に責任を負うところの、当たり前で普遍的な価値観や規範がある。

(28) ありがたいことに、私たちの根元は皆、神聖な存在にあり、この事が今日の世界における争いを解決する共通基盤となっている。

(29) 私たちの根元は皆、神聖な存在にあるので、それ故に相違点よりも類似点の方がより多い。

(30) 私たち全ては、神聖な存在にあり、このことが、人類救済の共通の基盤である。

表9 異文化理解に対する「普遍的価値」

| 事前アンケート調査結果 | | | | | |
|-------------|------|---------|---------|---------|---------|
| 海外留学経験 | | 質問 (27) | 質問 (28) | 質問 (29) | 質問 (30) |
| 海外留学経験無し | 平均値 | 2.75 | 2.30 | 2.25 | 2.35 |
| | 度数 | 20 | 20 | 20 | 20 |
| | 標準偏差 | 0.64 | 0.80 | 0.72 | 0.75 |
| 3か月未満 | 平均値 | 3.00 | 2.33 | 2.33 | 2.33 |
| | 度数 | 3 | 3 | 3 | 3 |
| | 標準偏差 | 1.00 | 1.53 | 1.53 | 1.53 |
| 2年以上 | 平均値 | 3.00 | 2.57 | 2.57 | 2.29 |
| | 度数 | 7 | 7 | 7 | 7 |
| | 標準偏差 | 0.58 | 0.79 | 0.54 | 1.11 |
| 合計 | 平均値 | 2.83 | 2.37 | 2.33 | 2.33 |
| | 度数 | 30 | 30 | 30 | 30 |
| | 標準偏差 | 0.65 | 0.85 | 0.76 | 0.88 |
| 事後アンケート調査結果 | | | | | |
| 海外留学経験 | | 質問 (27) | 質問 (28) | 質問 (29) | 質問 (30) |
| 海外留学経験無し | 平均値 | 2.83 | 2.39 | 2.39 | 2.56 |
| | 度数 | 18 | 18 | 18 | 18 |
| | 標準偏差 | 0.79 | 1.09 | 0.98 | 1.04 |
| 3か月未満 | 平均値 | 3.00 | 2.33 | 2.33 | 2.33 |
| | 度数 | 3 | 3 | 3 | 3 |
| | 標準偏差 | 1.00 | 1.53 | 1.53 | 1.53 |
| 2年以上 | 平均値 | 2.71 | 2.71 | 2.71 | 2.71 |
| | 度数 | 7 | 7 | 7 | 7 |
| | 標準偏差 | 0.95 | 0.95 | 0.76 | 0.76 |
| 合計 | 平均値 | 2.82 | 2.46 | 2.46 | 2.57 |
| | 度数 | 28 | 28 | 28 | 28 |
| | 標準偏差 | 0.82 | 1.07 | 0.96 | 1.00 |

「普遍的価値」に関する質問内容では、学生が普段使用しない言葉や表現が使われているため、質問内容を理解することが難しい学生がいたことが考えられる。各グループにおいて、事前・事後調査ともに平均値の大きな差は示されなかった(表9)。TGGでのアクティビティ内容の中に宗教に関するディスカッション等が含まれていないため、留学経験の有無に関係なく各学生の宗教意識に影響を与えることはほとんどなかったことが考えられる。

5.2.4 異文化感受性発達段階のうちの第4段階「違いの受容」

第4段階目は、「違いの受容」であり、下位カテゴリーの「違いの描写」についての質問は以下の2つである。

(31)個人主義により重きを置いている文化もあれば、集団で物事を行うことにより重きを置いている文化もある。

(32)人々は文化を優劣で語るべきではない。

「違いの描写」に関する質問では、各グループともに事前・事後調査の結果、高い平均値を示しているため、アクティビティ参加前後で平均値の大きな差は示されなかった（表 10）。学生は、集団主義や個人主義の国民性の違いをすでに自己認識している可能性があり、TGG でのアクティビティ参加を通じ、学生の意識において大きな変化が生まれるとは言い難いと考える。

次に、「違いを楽しむ」についての質問は以下の 3 つである。

(33)私はだいたいにおいて、自分自身と他の文化の人々の間にある違いを楽しむ。

(34)他の国々に旅行するのは、世界の民族の間にある違いが見られるので、良いことだ。

(35)もし人々が違っているとしたら、それは問題ではない。それは面白いことである。

TGG では、異なるバックグラウンドを持つ人々との交流を通じ、その違いを理解し楽しむことがアクティビティの主旨として含まれている。調査の結果、留学経験の有無に関係なく、事前・事後調査において高い平均値が示された（表 11）。外国人教員とのアクティビティを通じ、学生は英語でのコミュニケーションの楽しさや異文化に対する意識がさらに高まった可能性がある。

表 10 異文化理解に対する「違いの描写」

| 事前アンケート調査結果 | | | |
|-------------|------|---------|---------|
| 海外留学経験 | | 質問 (31) | 質問 (32) |
| 海外留学経験無し | 平均値 | 3.50 | 3.45 |
| | 度数 | 20 | 20 |
| | 標準偏差 | 0.51 | 0.76 |
| 3 か月未満 | 平均値 | 3.67 | 3.67 |
| | 度数 | 3 | 3 |
| | 標準偏差 | 0.58 | 0.58 |
| 2 年以上 | 平均値 | 3.14 | 3.43 |
| | 度数 | 7 | 7 |
| | 標準偏差 | 0.69 | 0.79 |
| 合計 | 平均値 | 3.43 | 3.47 |
| | 度数 | 30 | 30 |
| | 標準偏差 | 0.57 | 0.73 |

| 事後アンケート調査結果 | | | |
|-------------|------|---------|---------|
| 海外留学経験 | | 質問 (31) | 質問 (32) |
| 海外留学経験無し | 平均値 | 3.56 | 3.61 |
| | 度数 | 18 | 18 |
| | 標準偏差 | 0.62 | 0.70 |
| 3か月未満 | 平均値 | 3.00 | 4.00 |
| | 度数 | 3 | 3 |
| | 標準偏差 | 1.73 | 0.00 |
| 2年以上 | 平均値 | 3.14 | 3.14 |
| | 度数 | 7 | 7 |
| | 標準偏差 | 0.69 | 0.69 |
| 合計 | 平均値 | 3.39 | 3.54 |
| | 度数 | 28 | 28 |
| | 標準偏差 | 0.79 | 0.69 |

表 11 異文化理解に対する「違いを楽しむ」

| 事前アンケート調査結果 | | | | |
|-------------|------|---------|---------|---------|
| 海外留学経験 | | 質問 (33) | 質問 (34) | 質問 (35) |
| 海外留学経験無し | 平均値 | 3.25 | 3.55 | 3.50 |
| | 度数 | 20 | 20 | 20 |
| | 標準偏差 | 0.64 | 0.61 | 0.61 |
| 3か月未満 | 平均値 | 3.33 | 3.67 | 3.33 |
| | 度数 | 3 | 3 | 3 |
| | 標準偏差 | 1.16 | 0.58 | 1.16 |
| 2年以上 | 平均値 | 3.57 | 3.71 | 3.71 |
| | 度数 | 7 | 7 | 7 |
| | 標準偏差 | 0.79 | 0.49 | 0.76 |
| 合計 | 平均値 | 3.33 | 3.60 | 3.53 |
| | 度数 | 30 | 30 | 30 |
| | 標準偏差 | 0.71 | 0.56 | 0.68 |
| 事後アンケート調査結果 | | | | |
| 海外留学経験 | | 質問 (33) | 質問 (34) | 質問 (35) |
| 海外留学経験無し | 平均値 | 3.61 | 3.67 | 3.61 |
| | 度数 | 18 | 18 | 18 |
| | 標準偏差 | 0.50 | 0.59 | 0.50 |
| 3か月未満 | 平均値 | 3.67 | 3.67 | 3.67 |
| | 度数 | 3 | 3 | 3 |
| | 標準偏差 | 0.58 | 0.58 | 0.58 |
| 2年以上 | 平均値 | 3.57 | 3.43 | 3.71 |
| | 度数 | 7 | 7 | 7 |
| | 標準偏差 | 0.54 | 0.54 | 0.49 |
| 合計 | 平均値 | 3.61 | 3.61 | 3.64 |
| | 度数 | 28 | 28 | 28 |
| | 標準偏差 | 0.50 | 0.57 | 0.49 |

次に「違いを学習」についての質問は以下の2つである。

(36)たてそうすることが難しい時でも、他の文化の人々のものの見方に対し

して心を聞き、彼らの目から物事を見るように努めなければならない。

(37)私は文化の異なる人々の価値観を理解しようと努める。

海外留学未経験者のグループと3か月未満の海外留学経験のある学生のグループでは、事後調査結果において、各質問の平均値が上がっている（表12）。一方で、2年以上の留学経験のある学生のグループでは、事前・事後調査においてほぼ同じ平均値の値であった。学生は、外国人教員や参加学生から異なる意見や考えを聞き、他文化を理解することの大切さや異なる人々の価値観を理解することの重要性を体得したことが考えられる。

表 12 異文化理解に対する「違いを学習」

| 事前アンケート調査結果 | | | |
|-------------|------|---------|---------|
| 海外留学経験 | | 質問 (36) | 質問 (37) |
| 海外留学経験無し | 平均値 | 3.35 | 3.45 |
| | 度数 | 20 | 20 |
| | 標準偏差 | 0.67 | 0.69 |
| 3か月未満 | 平均値 | 3.00 | 3.33 |
| | 度数 | 3 | 3 |
| | 標準偏差 | 0.00 | 0.58 |
| 2年以上 | 平均値 | 3.29 | 3.43 |
| | 度数 | 7 | 7 |
| | 標準偏差 | 0.76 | 0.54 |
| 合計 | 平均値 | 3.30 | 3.43 |
| | 度数 | 30 | 30 |
| | 標準偏差 | 0.65 | 0.63 |
| 事後アンケート調査結果 | | | |
| 海外留学経験 | | 質問 (36) | 質問 (37) |
| 海外留学経験無し | 平均値 | 3.61 | 3.67 |
| | 度数 | 18 | 18 |
| | 標準偏差 | 0.50 | 0.59 |
| 3か月未満 | 平均値 | 3.67 | 3.67 |
| | 度数 | 3 | 3 |
| | 標準偏差 | 0.58 | 0.58 |
| 2年以上 | 平均値 | 3.29 | 3.29 |
| | 度数 | 7 | 7 |
| | 標準偏差 | 0.49 | 0.76 |
| 合計 | 平均値 | 3.54 | 3.57 |
| | 度数 | 28 | 28 |
| | 標準偏差 | 0.51 | 0.63 |

次の「価値相対性」についての質問は以下の3つである。

(38) 善悪に対する基本的な考えのいくつかが文化によって違うのは、あって然るべきことである。

(39) 他の文化の人々が、私の文化の人々とは必ずしも同じ価値観や目標を持たないのは、あって然るべきことである。

(40) 善悪に関する基本的な考えのいくつかが文化によって違うのは、あって

然るべきことである。

各グループにおいて、事前・事後調査での平均値に大きな差は示されなかった（表 13）。3 か月未満の留学経験のある学生のグループでは、事前・事後調査結果の平均値は同じ値であった。「価値相対性」の質問内容は、1 日のアクティビティ参加を通じて異文化感受性の変化を測る質問であるとは言い難く、学生が日々の生活で築き上げてきた異文化経験の影響もアンケートに回答する上で影響した可能性がある。

表 13 異文化理解に対する「価値相対性」

| 事前アンケート調査結果 | | | | |
|-------------|------|---------|---------|---------|
| 海外留学経験 | | 質問 (38) | 質問 (39) | 質問 (40) |
| 海外留学経験無し | 平均値 | 3.35 | 3.40 | 3.25 |
| | 度数 | 20 | 20 | 20 |
| | 標準偏差 | 0.75 | 0.68 | 0.72 |
| 3 か月未満 | 平均値 | 4.00 | 4.00 | 4.00 |
| | 度数 | 3 | 3 | 3 |
| | 標準偏差 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 2 年以上 | 平均値 | 3.14 | 3.29 | 3.00 |
| | 度数 | 7 | 7 | 7 |
| | 標準偏差 | 0.38 | 0.49 | 0.00 |
| 合計 | 平均値 | 3.37 | 3.43 | 3.27 |
| | 度数 | 30 | 30 | 30 |
| | 標準偏差 | 0.67 | 0.63 | 0.64 |
| 事後アンケート調査結果 | | | | |
| 海外留学経験 | | 質問 (38) | 質問 (39) | 質問 (40) |
| 海外留学経験無し | 平均値 | 3.61 | 3.39 | 3.50 |
| | 度数 | 18 | 18 | 18 |
| | 標準偏差 | 0.50 | 0.70 | 0.62 |
| 3 か月未満 | 平均値 | 4.00 | 4.00 | 4.00 |
| | 度数 | 3 | 3 | 3 |
| | 標準偏差 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 2 年以上 | 平均値 | 3.14 | 3.29 | 3.14 |
| | 度数 | 7 | 7 | 7 |
| | 標準偏差 | 0.38 | 0.49 | 0.38 |
| 合計 | 平均値 | 3.54 | 3.43 | 3.46 |
| | 度数 | 28 | 28 | 28 |
| | 標準偏差 | 0.51 | 0.63 | 0.58 |

5.2.5 異文化感受性発達段階のうちの第5段階「違いへの適応」

第5段階目は、「違いへの適応」であり、下位カテゴリーの「多重視点」についての質問は以下の2つである。

(41) 異文化的な状況を判断する時には、二つ以上の文化的なものの見方から引き出せる方が良い。

(42)私は二つ以上の文化の一員であると感じることには、利点があると感じる。

表 14 異文化理解に対する「多重視点」

| 事前アンケート調査結果 | | | |
|-------------|------|---------|---------|
| 海外留学経験 | | 質問 (41) | 質問 (42) |
| 海外留学経験無し | 平均値 | 3.40 | 3.10 |
| | 度数 | 20 | 20 |
| | 標準偏差 | 0.68 | 0.79 |
| 3か月未満 | 平均値 | 3.67 | 3.33 |
| | 度数 | 3 | 3 |
| | 標準偏差 | 0.58 | 1.16 |
| 2年以上 | 平均値 | 3.29 | 3.29 |
| | 度数 | 7 | 7 |
| | 標準偏差 | 0.76 | 0.76 |
| 合計 | 平均値 | 3.40 | 3.17 |
| | 度数 | 30 | 30 |
| | 標準偏差 | 0.68 | 0.79 |
| 事後アンケート調査結果 | | | |
| 海外留学経験 | | 質問 (41) | 質問 (42) |
| 海外留学経験無し | 平均値 | 3.61 | 3.50 |
| | 度数 | 18 | 18 |
| | 標準偏差 | 0.50 | 0.51 |
| 3か月未満 | 平均値 | 3.67 | 3.33 |
| | 度数 | 3 | 3 |
| | 標準偏差 | 0.58 | 1.16 |
| 2年以上 | 平均値 | 3.00 | 3.00 |
| | 度数 | 7 | 7 |
| | 標準偏差 | 1.00 | 1.00 |
| 合計 | 平均値 | 3.46 | 3.36 |
| | 度数 | 28 | 28 |
| | 標準偏差 | 0.69 | 0.73 |

海外留学未経験者のグループでは、事前・事後調査の平均値を比べると、全ての質問において事後調査結果の平均値が高くなった（表 14）。3か月未満の留学経験を持つ学生のグループでは、事前・事後調査結果の平均値に変化が示されなかった。2年以上の留学経験を持つ学生のグループでは、事後調査結果の平均値が事前調査に比べ、平均値が下がる結果が示された。海外留学未経験の学生にとって、今まで英語のみを使い一日過ごした経験はなく、TGGでの体験を通じ、2つ以上の文化の一員としての利点を感じ取った可能性がある。一方で、長期留学経験を持つ学生は、事後調査結果の平均値が下がった。今後、インタビュー調査等の質的調査を実施し、さらに深く分析する必要がある。

- 次に、「枠組み転換」についての質問は以下の4つである。
- (43)問題が起こった時、私はしばしばそれらの問題を二つ以上の文化的なもの
の見方から分析する。
- (44)私は時には自分自身の文化における状況を、他の文化のものの見方から
評価することを選択する。
- (45)私は、自分が違う文化の考え方の枠組みを使っているので、時々周囲の
人たちとは違ったふうに状況を判断することに気がついている。
- (46)私は状況を解釈したり判断したりする時に、異なる文化の基準を用いる。

表 15 異文化理解に対する「枠組みの転換」

| 事前アンケート調査結果 | | | | | |
|-------------|------|---------|---------|---------|---------|
| 海外留学経験 | | 質問 (43) | 質問 (44) | 質問 (45) | 質問 (46) |
| 海外留学経験無し | 平均値 | 2.65 | 2.70 | 2.70 | 2.70 |
| | 度数 | 20 | 20 | 20 | 20 |
| | 標準偏差 | 0.67 | 0.92 | 0.92 | 0.87 |
| 3か月未満 | 平均値 | 3.00 | 3.33 | 3.00 | 3.00 |
| | 度数 | 3 | 3 | 3 | 3 |
| | 標準偏差 | 1.00 | 0.58 | 1.00 | 1.00 |
| 2年以上 | 平均値 | 2.71 | 2.86 | 2.71 | 3.00 |
| | 度数 | 7 | 7 | 7 | 7 |
| | 標準偏差 | 0.76 | 0.69 | 0.76 | 0.82 |
| 合計 | 平均値 | 2.70 | 2.80 | 2.73 | 2.80 |
| | 度数 | 30 | 30 | 30 | 30 |
| | 標準偏差 | 0.70 | 0.85 | 0.87 | 0.85 |
| 事後アンケート調査結果 | | | | | |
| 海外留学経験 | | 質問 (43) | 質問 (44) | 質問 (45) | 質問 (46) |
| 海外留学経験無し | 平均値 | 2.94 | 3.06 | 3.11 | 3.06 |
| | 度数 | 18 | 18 | 18 | 18 |
| | 標準偏差 | 0.73 | 0.80 | 0.76 | 0.73 |
| 3か月未満 | 平均値 | 3.33 | 3.33 | 3.33 | 3.33 |
| | 度数 | 3 | 3 | 3 | 3 |
| | 標準偏差 | 1.16 | 1.16 | 0.58 | 0.58 |
| 2年以上 | 平均値 | 3.14 | 3.00 | 3.29 | 3.29 |
| | 度数 | 7 | 7 | 7 | 7 |
| | 標準偏差 | 0.38 | 0.58 | 0.49 | 0.49 |
| 合計 | 平均値 | 3.04 | 3.07 | 3.18 | 3.14 |
| | 度数 | 28 | 28 | 28 | 28 |
| | 標準偏差 | 0.69 | 0.77 | 0.67 | 0.65 |

「枠組みの転換」に関する質問では、全ての学生のグループの事前調査での平均値に比べ、事後調査の平均値が上がっていることが示された（表15）。海外留学未経験者のグループの事前調査では、全ての質問の平均値は3.0未満であったが、事後調査では、質問（43）を除く全ての質問の平均値

が3.0以上に上がった。特に質問（45）では、他の質問に比べ、事前・事後調査での平均値の差が大きく、外国人教員や参加学生との様々な視点からの意見交換やアクティビティを通じ、周囲の人たちとは違う状況を判断することに気がつく体験があったことが推測できる。3か月未満の留学経験を持つ学生のグループでは、質問（44）の事前・事後調査結果の平均値に変化がなかった。2年以上の留学経験を持つ学生グループでは、海外留学未経験者のグループと同じく、質問（45）の平均値が事後調査では上がっている。TGGでのアクティビティを通じ、2年以上の留学経験を持つ学生（留学生）にも異文化感受性の変化が示された。ベトナムや中国からの留学生は、日本人とも外国人教員とも、自身の考えが異なる点があると感じた可能性がある。

次に、「文化間の橋渡し」についての質問項目は以下の4つである。

(47)私は人々が自分の文化的価値観や習慣上の違いをよりよく理解できるよう手助けすることによって、文化の異なる人々の間に国際的理解を増すことにしばしば成功している。

(48)私は異なる文化の人々の間で、よく文化の架け橋としてつとめる。

(49)私は文化の異なる人々の間に起こる意見の相違において、しばしば文化的な仲介者としてふるまう。

(50)時に私は自分自身の文化における状況を、自分の他の文化での経験や知識をもとに判断することがある。

「文化の橋渡し」の質問において、海外留学未経験者のグループでは、事前調査結果に比べ、事後調査結果の平均値が上がっているものの大きな変化は示されなかった（表16）。他の海外留学経験を持つ学生と比較すると、海外留学未経験の学生は国内外での異文化経験が少なく、今回のアクティビティ参加を通じ、自文化と他文化を理解するきっかけとなった可能性がある。一方で、3か月未満の留学経験を持つ学生のグループと2年以上の留学経験を持つ学生のグループの事後調査では、全ての質問の平均値が3.0以上である。今回の体験を通じ、学生自身の今までの海外留学経験を活かし、文化の橋渡しの役割を担う意識がさらに強くなったのではないかと考える。

表 16 異文化理解に対する「文化間の橋渡し」

| 事前アンケート調査結果 | | | | | |
|-------------|------|---------|---------|---------|---------|
| 海外留学経験 | | 質問 (47) | 質問 (48) | 質問 (49) | 質問 (50) |
| 海外留学経験無し | 平均値 | 2.65 | 2.60 | 2.50 | 2.85 |
| | 度数 | 20 | 20 | 20 | 20 |
| | 標準偏差 | 0.93 | 0.88 | 0.95 | 0.81 |
| 3 か月未満 | 平均値 | 2.67 | 3.00 | 3.33 | 3.67 |
| | 度数 | 3 | 3 | 3 | 3 |
| | 標準偏差 | 1.16 | 1.00 | 0.58 | 0.58 |
| 2 年以上 | 平均値 | 2.86 | 2.86 | 2.86 | 3.29 |
| | 度数 | 7 | 7 | 7 | 7 |
| | 標準偏差 | 0.69 | 0.90 | 0.90 | 0.76 |
| 合計 | 平均値 | 2.70 | 2.70 | 2.67 | 3.03 |
| | 度数 | 30 | 30 | 30 | 30 |
| | 標準偏差 | 0.88 | 0.88 | 0.92 | 0.81 |
| 事後アンケート調査結果 | | | | | |
| 海外留学経験 | | 質問 (47) | 質問 (48) | 質問 (49) | 質問 (50) |
| 海外留学経験無し | 平均値 | 2.78 | 2.72 | 2.56 | 3.00 |
| | 度数 | 18 | 18 | 18 | 18 |
| | 標準偏差 | 0.88 | 0.83 | 0.71 | 0.77 |
| 3 か月未満 | 平均値 | 3.00 | 3.00 | 3.33 | 4.00 |
| | 度数 | 3 | 3 | 3 | 3 |
| | 標準偏差 | 1.00 | 1.00 | 0.58 | 0.00 |
| 2 年以上 | 平均値 | 3.00 | 3.14 | 3.14 | 3.14 |
| | 度数 | 7 | 7 | 7 | 7 |
| | 標準偏差 | 0.58 | 0.38 | 0.69 | 0.38 |
| 合計 | 平均値 | 2.86 | 2.86 | 2.79 | 3.14 |
| | 度数 | 28 | 28 | 28 | 28 |
| | 標準偏差 | 0.80 | 0.76 | 0.74 | 0.71 |

5.2.6 異文化感受性発達段階のうちの第6段階「違いとの統合」

最後の第6段階目は、「違いとの統合」であり、下位カテゴリーの「行動転換」についての質問項目は以下の6つである。

- (51)私は権威や権力に対する自分の意見が、文化の異なる人々の見方とはなぜ違うのか理解している。
- (52)私は、しばしば自分と他人とのコミュニケーションのとり方を、相手の文化的背景に合わせる。
- (53)文化の異なる人々と、いろいろと違うやり方で、私はコミュニケーションできると感じている。
- (54)私は自分自身を一つの文化の一員であるときとみなすと同時に、他の一つかそれ以上の文化において適切なやり方でふるまうことができる。
- (55)私は文化の異なる人々といえる時は、自分の文化の人々といえる時とは違ったふうに行動する。

(56)文化の異なる人々と接する時、彼らのやり方に適応するために、自分のふるまい方を変えていることに気づく。

表 17 異文化理解に対する「行動転換」

| 事前アンケート調査結果 | | | | | | | |
|-------------|------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 海外留学経験 | | 質問 (51) | 質問 (52) | 質問 (53) | 質問 (54) | 質問 (55) | 質問 (56) |
| 海外留学経験無し | 平均値 | 2.60 | 3.00 | 2.65 | 2.90 | 2.60 | 2.90 |
| | 度数 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 |
| | 標準偏差 | 0.75 | 0.80 | 0.75 | 0.85 | 0.75 | 0.72 |
| 3か月未満 | 平均値 | 3.33 | 3.67 | 3.33 | 3.00 | 3.67 | 3.67 |
| | 度数 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 |
| | 標準偏差 | 1.16 | 0.58 | 1.16 | 1.00 | 0.58 | 0.58 |
| 2年以上 | 平均値 | 3.14 | 3.43 | 3.29 | 3.29 | 3.43 | 3.29 |
| | 度数 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 |
| | 標準偏差 | 0.90 | 0.54 | 0.49 | 0.76 | 0.54 | 0.49 |
| 合計 | 平均値 | 2.80 | 3.17 | 2.87 | 3.00 | 2.90 | 3.07 |
| | 度数 | 30 | 30 | 30 | 30 | 30 | 30 |
| | 標準偏差 | 0.85 | 0.75 | 0.78 | 0.83 | 0.80 | 0.69 |
| 事後アンケート調査結果 | | | | | | | |
| 海外留学経験 | | 質問 (51) | 質問 (52) | 質問 (53) | 質問 (54) | 質問 (55) | 質問 (56) |
| 海外留学経験無し | 平均値 | 3.11 | 3.28 | 2.94 | 3.06 | 2.56 | 3.22 |
| | 度数 | 18 | 18 | 18 | 18 | 18 | 18 |
| | 標準偏差 | 0.58 | 0.46 | 0.64 | 0.64 | 0.71 | 0.65 |
| 3か月未満 | 平均値 | 3.67 | 4.00 | 3.33 | 3.00 | 3.33 | 4.00 |
| | 度数 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 |
| | 標準偏差 | 0.58 | 0.00 | 1.16 | 1.00 | 0.58 | 0.00 |
| 2年以上 | 平均値 | 3.00 | 3.29 | 3.43 | 3.00 | 3.14 | 3.14 |
| | 度数 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 |
| | 標準偏差 | 0.58 | 0.49 | 0.54 | 0.58 | 0.69 | 0.69 |
| 合計 | 平均値 | 3.14 | 3.36 | 3.11 | 3.04 | 2.79 | 3.29 |
| | 度数 | 28 | 28 | 28 | 28 | 28 | 28 |
| | 標準偏差 | 0.59 | 0.49 | 0.69 | 0.64 | 0.74 | 0.66 |

「行動転換」の質問では、事前調査における海外留学未経験者のグループは、他の海外留学経験を持つ学生のグループに比べ、全ての質問で平均値が低かったが、事後調査では全ての質問での平均値が3.0以上を示した(表17)。TGGでのアクティビティを通じ、海外留学未経験者にとって、この1日は大きな異文化体験となり、他のグループの学生よりも印象的なインパクトがあったため、行動転換の重要性を認識したことが伺える。海外留学経験のある学生のグループの事前・事後調査の平均値は高く、コミュニケーションを取る際に相手の文化的背景に合わせることや自身のふるまいなどを異文化理解の視点から再認識する機会となった可能性がある。

次の「文化的複雑性」についての質問項目は以下の4つである。

- (57)私は自分自身の文化の一員であると感じてはいるが、他の一つかそれ以上の文化でも、ほとんど同じくらい居心地が良い。
- (58)私は主に自分を自分自身の文化の一員であると思っているが、他の一つかそれ以上の文化も自分の一部であると感じている。
- (59)私は自分自身を自分の文化の一員であるとしているが、同時に、他の一つかそれ以上の他の文化に在る時には、その集団の一員が考えるように自分が考えているのに気づく。
- (60)異なる文化にしばらく暮らすと、私は無意識のうちに自分がその文化の人々とよく似たやり方でふるまっていることにしばしば気づく。

表 18 異文化理解に対する「文化的複雑性」

| 事前アンケート調査結果 | | | | | |
|-------------|------|---------|---------|---------|---------|
| 海外留学経験 | | 質問 (57) | 質問 (58) | 質問 (59) | 質問 (60) |
| 海外留学経験無し | 平均値 | 2.80 | 2.50 | 2.50 | 2.75 |
| | 度数 | 20 | 20 | 20 | 20 |
| | 標準偏差 | 0.77 | 0.83 | 0.76 | 0.91 |
| 3か月未満 | 平均値 | 3.33 | 3.00 | 3.00 | 3.33 |
| | 度数 | 3 | 3 | 3 | 3 |
| | 標準偏差 | 0.58 | 1.00 | 1.00 | 1.16 |
| 2年以上 | 平均値 | 3.29 | 3.29 | 3.43 | 3.29 |
| | 度数 | 7 | 7 | 7 | 7 |
| | 標準偏差 | 0.76 | 0.76 | 0.54 | 0.76 |
| 合計 | 平均値 | 2.97 | 2.73 | 2.77 | 2.93 |
| | 度数 | 30 | 30 | 30 | 30 |
| | 標準偏差 | 0.77 | 0.87 | 0.82 | 0.91 |
| 事後アンケート調査結果 | | | | | |
| 海外留学経験 | | 質問 (57) | 質問 (58) | 質問 (59) | 質問 (60) |
| 海外留学経験無し | 平均値 | 3.17 | 3.06 | 3.00 | 3.17 |
| | 度数 | 18 | 18 | 18 | 18 |
| | 標準偏差 | 0.71 | 0.87 | 0.77 | 0.71 |
| 3か月未満 | 平均値 | 2.67 | 3.33 | 3.33 | 4.00 |
| | 度数 | 3 | 3 | 3 | 3 |
| | 標準偏差 | 1.16 | 0.58 | 0.58 | 0.00 |
| 2年以上 | 平均値 | 3.29 | 3.00 | 3.14 | 3.43 |
| | 度数 | 7 | 7 | 7 | 7 |
| | 標準偏差 | 0.49 | 0.00 | 0.69 | 0.79 |
| 合計 | 平均値 | 3.14 | 3.07 | 3.07 | 3.32 |
| | 度数 | 28 | 28 | 28 | 28 |
| | 標準偏差 | 0.71 | 0.72 | 0.72 | 0.72 |

「文化的複雑性」に関する質問では、海外留学未経験者のグループの事前調査における平均値は 3.0 未満であった。事後調査では全ての質問において平均値が 3.0 以上に上がった (表 18)。TGG でのアクティビティを通じ、

海外留学未経験の学生は、外国人教員と英語のみでコミュニケーションを取るように自信を持てるようになり、同時にその空間に居心地の良さを感じたことが推測できる。一方で、海外留学経験を持つ学生のグループでは、事前調査よりも事後調査の平均値がわずかに上がっているが、事前・事後調査において大きな差は示されなかった。TGGでのアクティビティ参加や母国とは異なる文化の中での留学経験を通じ、他の文化的価値観を受け入れることの重要性を理解し、自然に他文化に合わせるができる段階に達していることが伺える。

6. 考察

1日という限られた時間の中での国内留学経験を通じ、参加学生の異文化感受性の変化に関する調査を行った。今回の調査では、第1段階から第3段階の自文化中心的段階において、海外留学未経験者の事前・事後調査の平均値の値に大きな差が示されなかった。言い換えると、海外留学未経験者の国際的志向性が低いと仮定した時、国際的志向性の低い学生は、異文化体験をしても自文化中心的な段階では変化が見られないと言える。一方、第4段階から第6段階の文化相対的な段階では変化が見られていることを鑑みると、国際的志向性が低い学生は、自文化と異文化との差異を認識する間もなく異文化をある程度受け入れてしまっており、そもそも自文化の認識が低いのかもかもしれない。坂田・前田(2005)のように自文化の気づきを高める授業(エゴグラムを用いた自己分析や生活・文化体験が現在の自己に与えた影響等)を準備段階で行うことで下位カテゴリーでの変化がある可能性がある。また、戸田・丸(2020)は、学生の海外研修参加前後における異文化感受性の変化に関する調査の中で、研修参加後の学生の異文化感受性が高くなっているが、異文化への否定的な感情が低減しない学生が存在することも述べている(p.18)。自文化中心的な段階での事前・事後調査の中で変化しなかった質問項目については、その要因について引き続き検証する必要がある。

一方で、異文化感受性モデルの第4段階から第6段階までの文化相対的

段階では、事前・事後調査において、海外留学未経験の学生の平均値に大きな変化が示された質問項目が多かった。特に、図2の第5段階の「枠組み転換」や第6段階の「行動転換」「文化的複雑性」に関する質問項目では、事前調査結果の平均値に比べ、事後調査結果での平均値が上がっていることが示された。第5段階の「枠組み転換」では、異言語・異文化環境において、異なる価値観の人々と接する中でどのように問題を解決するのかが問われている。奥山（2017）は、海外留学経験のある学生を対象とした調査結果において、「問題意識を研ぎ澄ませ、課題解決へと仲間と取り組む実践的・協働的プロセスの中で、異文化での意思伝達ツールとしての言語能力の必要性を強く認識し、言語能力向上へのモチベーションを得るかもしれない」（p.99）と述べている。TGGでのアクティビティを通じ、学生は自分の考えや意見を英語で発信することの重要性も認識した可能性がある。阿部ら（2017）が1学期（4か月）以上の派遣留学生の留学前後での意識調査を実施したところ、コミュニケーションを取る上で発信力と受信力が重要であるという意識が留学後に高まり、また、海外留学中の適応初期段階では特に発信力がより求められるスキルであると述べている（p.16-17）。八島（2001）が行った国際的志向性と英語学習モチベーションに関する調査では、大学生の英語力と英語学習意欲への影響は確認できなかったものの、国際的志向性は学習意欲と結びついており、学生が学んできた学習の集積としての英語力に反映されることが明らかになった（p.43）。本調査では、課題解決等のアクティビティを通じ、参加学生は、日本語を母国語としない人と英語で対等にディスカッションできるためのスキルや知識を併せ持つことの重要性や、自分の考えを英語で発信するための語学力の必要性を認識し、英語学習へのモチベーションにも繋がったことを実証するためにさらなる調査が必要である。

本調査において、海外留学未経験の学生は、異なるバックグラウンドを持つ相手の考えや意見を理解し受け入れることの大切さを学び、異文化理解に対する考え方が大きく変わったことが示された。今後は、学生の国際的志向性をさらに高めるため、英語を学ぶことのみを最終目的とするのではなく、コミュニケーションの道具としての英語を使いこなし、異文化理解の重要性を認識する段階まで学生の意識を引き上げる必要がある。そのための具体的

な施策の構築が急務である。

7. おわりに

海外留学未経験の学生は、TGGでの国内留学を通じ、異文化に対する理解と新たな気づきを得たことと同時に文化を理解することの大切さを認識していることが量的調査結果から明らかになった。小西（2017）が短期留学経験のある大学生を対象とした意識調査では、学生のグローバル・マインドセットの育成は確認できなかったものの、自己効力感を向上する効果が確認でき、今後、長期留学や個人手配の留学に参加することでグローバル・マインドセットを育成することが期待できると述べている（p.25）。本調査では、語学力が低く、海外留学未経験の学生が1日国内留学体験を通じ、異文化感受性の変化を遂げたことが示された。今後、学生たちの異文化理解に対する考え方がTGGでの国内留学体験によりどのようなプロセスで変わったのかを見極め、学生たちの異文化理解度を向上させるにはどのような授業を展開すべきかを検討する必要がある。自己効力感や異文化感受性の変容プロセスをさらに明確にするためには、参加学生を対象とした質的調査を実施する必要がある。今後は、さらに多角的に質的・量的研究調査を行い、より効果的に学生の国際的志向性と自己効力感を向上させる異文化理解教育と英語教育に繋がりたいと考えている。

付記

本研究は科研費により助成を受けた基礎研究（C）（一般）【22K00802】（研究代表者 東本裕子）である。

引用・参考文献

- 1) 阿部仁・新見有紀子・星洋（2017）「グローバル環境で育む4つの力—留学前後における派遣学生のコンピテンシー変化について—」『一橋大学国際教育センター紀要』9, pp.5-18.

- 2) 奥山和子 (2017) 「留学経験がもたらす効用としての自己効力感の形成プロセス—質的研究手法を使って—」神戸大学 大学教育推進機構『大学教育研究』25, pp.83-101.
- 3) 小西由樹子 (2017) 「短期留学を通じた自己効力感の向上一参加大学生へのインタビューを用いた質的調査—」早稲田大学 WBS 研究センター『早稲田国際経営研究』48, pp.17-26.
- 4) 坂田浩・前田有香 (2005) 「異文化発達質問紙 (IDI) を用いた多様性トレーニング効果の検証」『徳島大学留学センター紀要』1, pp.11-18.
- 5) 戸田登美子・丸光恵 (2020) 「看護学生の海外研修前後における異文化感受性の変化 (第2報)」『甲南女子大学研究紀要Ⅱ』14, pp.11-18.
- 6) 廣瀬浩二 (2020) 「大学生の国際的志向性—量的・質的分析—」『中部地区英語教育学会紀要』49, pp.283-290.
- 7) 沼田潤 (2012) 「日本人大学生における異文化理解の現状」『人間環境学研究』10 (2) , pp.55-63.
- 8) 八島智子 (2001) 「「国際的志向性」と英語学習モチベーション—異文化間コミュニケーションの観点から—」『外国語教育研究』創刊号, pp.33-47.
- 9) 山本志都・丹野大 (2002) 「異文化感受性発達尺度 (The Intercultural Development Inventory) の日本人に対する適用性の検討：日本語版作成を視野に入れて」『青森公立大学紀要』7 (2) , pp.24-42.
- 10) Bennett, Milton. (1986) . A development approach to training for intercultural sensitivity, *International Journal of Intercultural Relations*, 10 (2) , pp.179-196.
- 11) Hammer, Mitchell & Bennett, Milton. (1998) . *The intercultural development inventory (IDI) manual*. Portland: Intercultural Communication Institute.

註

- 1) 東京都教育委員会と株式会社 TOKYO GLOBAL GATEWAY が連携して提供する体験型学習施設 (所在地：東京都江東区) である。

- 2) Bennett, M. (1986) (p.182) と山本・丹野 (2002) (p.27) に掲載されている異文化感受性発達モデルをもとに加工した図である。
- 3) 山本・丹野 (2002) (p.28) が Hammer と Bennett (1998) に基づいて作成した図をもとに加工した図である。
- 4) 「東京都教員委員会と株式会社 TOKYO GLOBAL GATEWAY が提供する東京都英語村 大学・専門学校向けプログラム」(p.5) が提供するアクティビティの中から 4 つのアクティビティを著者が選択し実施した。